

第3回通常総会テープ起こし

日時 平成20年5月31日(土) 17時30分～18時00分

場所 東京大学 鉄門記念講堂(東京都文京区本郷 7-3-1)

会議の目的及び審議・報告事項

- 1 議長選出(竹村)
- 2 代表理事挨拶(代表理事)
- 3 会員数報告(代表理事)
- 4 平成19年度事業・決算報告(代表理事)
- 5 同年度監査報告(監事)
- 6 常設委員会・部会・ワーキンググループ報告
- 7 平成20年度事業・予算について
- 8 3学会合併について
- 9 第24回(2009年)学術集会について
- 10 第23回(2008年)学術集会について
- 11 その他

※ 議長選出後のテープ起こし内容

2. 代表理事挨拶(代表理事)

山田：今回、理事の選出を行いました。新理事を開催して、日本家庭医療学会としては重要な時期ですが、私、山田が3期目の代表理事を努めさせていただくことになりました。それと同時に、皆さんホームページ上でご承知とは思いますが、あいうえお順でお名前を読み上げていきますので、もし新理事の方がいらっしゃったらご起立ください。

(一人ずつお名前を読み上げ、新役員を紹介)

副代表理事は代表理事の指名ということで、2期に引き続き、葛西、竹村両先生に継続してお願いすることにいたしました。

(承認)

あと、監事を選出していただいて、亀谷先生、山本先生にお願いすることになりました。

(承認)

ということで 3 期目の新役員、執行部が決定いたしました。ただ、会則によれば代表理事の指名による指名理事というのが 5 名いらっしゃるのですが、今日の時点では実は決定しておりませんで、理事会でご意見を聞いて次回の理事会等で議決をして皆さんにお知らせするというごことをお願いしたいと思います。

ということで、新理事の体制をお話しましたが、理事の改選をした結果、概ねは前回の 2 期目の理事を引き継いでやっていただいた方が多くいます。今、日本家庭医療学会を取り巻く環境というのは非常に 2 期目の時に激動の時代というか、皆さんご承知のとおり医療崩壊だとかさまざまな社会問題が多くて、家庭医だけではないですが、今までの専門分野が限られた医師の育成から地域のニーズや幅広い対応ができるといったニーズが確実に時代とともに要求されているというのは皆さんご承知のことと思います。そういった中で、善かれ悪しかれ国ですとか、あるいは日本医師会ですとか、大きな組織がそういった総合的な医師を育成するための動きに着手し始めました。そういった動きに我々学会として迎合するつもりは全くありませんけれども、日本で家庭医療を普及するために、是非理事を筆頭に会員の皆さんたちの力を結集して、国民のために質の高い家庭医療が提供できるような体制を是非我々の手で作っていきたいと思っています。

今日の議題の最後のほうに 3 学会合併というのがありますが、我々 3 期目の役員としては、一番最大の課題が 3 学会合併の問題です。これは我々の学会の立場で利権を守るために投げ遣りなで合併するというのではなく、あくまでも国民のために、或いは今の医療の崩壊といったことの改善につながるような、国民に一番近い、患者さん中心の医療が提供できる医師の集団として是非世の中に提言するために、結集して力をあわせていこうというのは、3 学会の執行部が今までの話し合いの中ですすめていることです。

今までホームページやアンケート調査等々によって、皆さんのいろんなご意向をお伺いしましたけれども、概ね合併に関しては肯定的な意見が圧倒的に多くで、執行部も含めて役員全員でこの動きにしっかり沿った形で進めていこうと思っていますので、今後是非ご協力をお願いしたいと思います。

大島：ありがとうございました。

3. 会員数報告

大島：続きまして、代表理事の方から会員数の報告をお願いします。

山田：この一年の動きですが、お手元の資料にもあります。昨年 4 月初旬の時点で 1300 人程度の会員でした。それが、この 3 月末の時点で 1659 名。4 月 30 日の時点では 1701 名という、1700 名の大台を超えるようになりました。会費未納者については督促をしたうえで会費納入がない場合には自動的に退会という処置をしておりますものですから、理事会の名簿にはよく見知った名前が散見されますが、お忘れの際には未納部分を払っていただ

くと復帰させていただきますので、是非ご理解をいただきたいと思います。

大島：ありがとうございました。何か質問はありませんでしょうか。

(特になし)

4. 平成 19 年度事業・決算報告

大島：では、次の議題、平成 19 年度事業決算報告に移りたいと思います。

山田：3 月末の時点で、正味財産が 7,291,082 円という額が計上されています。これは、学会の資産として計上できる金額です。細かい項目については、決算書の裏をご覧ください。決算額としては、会員数が大幅に伸びたことで会費収入が予算の 960 万円から決算額が 1100 万円を越す収入があがりました。また、今年度特筆すべきことはプログラム認定を行いましたものですから、認定施設から認定料を徴収した関係で予算にはない 300 万円を越すプログラム認定登録料という収入があがりました。それから、事業のなかでは学術集会の収入が予算額 650 万円に対して、参加者の増加により 850 万円と大きく伸びました。プラス支出のほうを見ていただければ分かると思いますが、ほとんどそれと変わらない支出になっています。19 年度の学術集会の運営が大会長の白浜先生のご努力のお陰で黒字決算で本部負担がなくて学会が行えたということで、非常に有難かったです。それ以外では前年と比べて大きく変更になったところは、3 学会の合同会議が今まで以上に、認定委員会や法人化検討委員会といった枠組みで進めている関係上、会議費等々が膨らんでいるということがございます。ということで事業支出に関しては予算額 3 千万円に対して 3200 万円と、少し支出が膨らんでしまったということがあります。あと管理費についてはご覧のとおりですが、今回は田坂先生のメモリアルで出した Scene の印刷費と選挙があったので、それにかかわる印刷費が増えたということで事業活動とあわせて全体の支出を見ますと予算 3700 万円に比べて 4100 万円と支出が若干膨らんでしまったということになりました。ということで総収入が 3900 万円、総支出が 4100 円ということで、120 万円余りの赤字決算となったわけですが、前期の繰越が 850 万円ということでしたので、今回の収支差額を勘案すると 729 万円、先ほど正味財産のところでご通知した 729 万円というのが 3 月末での正味財産ということになりました。以上、19 年度の事業および決算報告を述べさせていただきました。

大島：今の報告について何かご質問などありますでしょうか。

(特になし)

5. 同年度監査報告

大島：では監事の先生から同年度の監査報告をお願いいたします。

藤崎：監事をやっております岐阜大学の藤崎です。昨日、もう一人の監事の津田先生と名古屋で会計監査をさせていただきました。帳簿、通帳類全部、かなり膨大なものですがどれも見させていただいて、正当に行使されていることを確認いたしましたので、それをご

報告します。ただ、山田先生からの報告もありましたが、今期 120 万円の赤字で、昨年も 1 千万くらいの赤字で今回もまた減ってということになっています。この間 3 学会合同であったりプログラム認定ということで会議がちょっと増えていますので、出費が嵩張ることも必要なことだと思っています。ただ、今期に関しては選挙関連で 50 万円あって、Scene のほうはちゃんと売れていますので問題ないですが、プログラム認定で 300 万円以上のお金が入ってきたお陰で 120 万円の赤字ということですね。それで、今年プログラム認定で入る充ては少ないと思いますので、プラスマイナスのバランスでいうと、若干不安な状態が続くのではないかというふうに思っています。

昨年もここで会計監査を報告した際に、学術集会の赤字が大きくなったら心配ということをおっしゃっていただきましたが、去年は思ったより参加者が多く結果的に黒字にはなったのですが、今年はまた外国から講師を呼んだりとかテーマがちょっとアドバンストなので、参加者がどうなのかによって、そこら辺がちょっと心配というのと、必要な経費をケチることはないと思うのですが、やはり事務局もすごく苦勞していただいて、あゆみコーポレーションなんか出張旅費は安い金券を買って来ていただいてという努力をしている一方で、学会本体が余り赤字をたくさん作るのはいかがかという気はします。是非そこら辺を考えた上で、次期理事会で運営していただきたいと思っています。以上です。

大島：ありがとうございました。それでは承認される方は拍手で承認をお願いします。

(承認)

6. 常設委員会・部会・ワーキンググループ報告

大島：続きまして、常設委員会・部会・ワーキンググループの報告ということで、編集委員会の先生からお願いします。

藤沼：学会誌の編集委員会では、年間 3 回の学会誌発行を目指してかなり投稿もコンスタントにありますが、是非論文の投稿もお願いします。ご協力をお願いします。

松下：広報委員会の会報を担当しております松下です。年 4 回の会報の発行を行ってございまして、ぎりぎりのペースですが情報提供ということで行わせていただいております。CME コーナーのほうは生涯教育委員会のほうにお願いしまして、ひとつ枠を持っていただいて今後継続していただくということでお願いしております。

三瀬：広報委員会の中で WEB サイトを担当しております三瀬です。今年は理事会で一般向けに家庭医療学のことを広報するということを決めましたが、年度末までに間に合いませんでしたので、受け継いでいただきたいと思っております。また会員組織に有効なデータ ●●になるように努力してまいりましたが、感想等お寄せいただきたいと思っております。

伴：生涯教育委員会の名古屋大学の伴でございます。生涯教育委員会は大きな活動農地のひとつが生涯教育ワークショップで、今年は 11 月 8 日（土）、9 日（日）で昨年と同様の伝馬研修センターで行いますので、是非ご参加いただければと思います。あと、いくつか活動しておりますけれども、時間の都合もございまして、割愛させていただきます。

山本：研究委員会を担当しております札幌医大の山本です。研究委員会で一番大きなことは、先ほど終わりました学会賞の評価と表彰です。あとは、今回のテーマでも研究になっていますが、若手の方の研究を促進するという事で、初学者のための勉強会をやっております。あとは学会賞をとるための 7 つの方法といったもの企画もさせていただいております。

白浜：倫理委員会の白浜です。研究倫理では、去年は 1 件だけでした。それについて検討しましたが、今日のお昼に倫理委員会を開きまして、やはり倫理というのが、今の研究のことをどんどんやってくださいというのがあるのですが、それがバリアになるのではなくて、倫理を考えることが研究するためには当たり前のことだというふうな、そういう倫理サポートをしたいということで、これだけのことをチェックしてくださいといったことを倫理委員会で今のホームページに掲示したうえで、簡単なことは簡単でいいという、そういうチェックにしたいと思っています。だから今日言っていたのですが、最初に倫理委員会の規定を通して研究しなくてはいけないというのでは、後で倫理的な審査が足らなかったということもあるでしょうから、そういう場合は後付けの確認という作業もしていきたいと思っていますので、そういう意味でよろしくお願いします。それからもうひとつは、倫理の事例検討も受け付けているのですが、それは今のところ一例もありませんので、是非こういうのがあるのは少ないですので、使われる方は使ってください。確かにこれもバリアは高いと思いますけれども、直接私も連絡ができる、メールをいただいたその上の詳しいことは私に個人的に電話をしていただいて、そして他の委員の意見を聞くということにしたいと思います。もうひとつ、田坂賞の選考委員になっておりまして、これについては何人かの方に応募していただきましたし、安田先生が受賞されましたけどこのことについてもご協力ありがとうございます。今年も同じようなことをしますので、またよろしくお願いいいたします。

岡田：FD 委員会の岡田です。メインな活動は認定プログラムの指導医、それからディレクター向けのワークショップということで、目標は年度 4 回ということですが、やる側も参加する側も他の学会、研究会等々の関係で日程が難しく、去年は 3 回、押し出しの形で 4 月にもう 1 回行った形で昨年度は行いました。もうひとつはプログラムが増えるに従ってプログラムの発達段階とか、指導医の発達段階とかということで非常にニーズもバラバラになってきて、その辺がこれからの課題かなと思っています。その辺りのニーズアセスメントなんかもやっていますので、その辺を今後進めていこうかと思っています。

森：若手家庭医部会代表の森です。若手家庭医部会は 2005 年の総会で認定されて発足した部会です。いい家庭医になりたいと思っているけれども、まだプログラムのない時代で、どうしていいかわからないという不安を抱える若手を中心に結成されました。2006 年からプログラム認定がされてきて、だんだんとプログラムがない時代からプログラムがある時代になりましたが、これからどういうプログラムになっていくかというところで、まだまだ若手のニーズがあると思うので活躍する場はあると思います。一応、規約上は 3 年目

から 10 年目までの学会員を対象としていますので、この中で 10 年未満の先生が折られましたら、是非また若手家庭医部会のほうにも顔を出してください。事業といたしましては、年に 1 回の冬期セミナーと、WEB サイト、日本の家庭医というメーリングリストの運営をやっております。昨年は 2 月の冬期セミナーで後期研修の先生に集まってもらって後期研修討論会も行いました。19 人の後期研修医に集まってもらって大盛況でしたが、また報告は WEB サイトに報告したいと思います。明日のお昼の 12 時から若手家庭医部会の総会をやりますので、是非 3 年目から 10 年目の先生、出席してください。よろしくお願いいたします。

阪本：患者教育用ワーキンググループ主任の阪本です。このパンフレットを作ろうという WG ですが、そもそも我々の定義が診療していくなかで、もっと患者様に説明したいという内容であったり、あるいは説明する内容を標準化したいという目的から作られた WG です。すでにテーマは決まっております、これから本格的に作っていくという形になっております。今日の懇親会で、20 名ぐらいでみんなで顔合わせをして、これから本格的に作っていくというところで集まる予定ですので、興味のある方は懇親会のときに声をかけていただくか、または学会事務局にご連絡ください。

大島：ありがとうございます。あと、学生研修医部会の方は、どなたかいらっしゃらないですか。いらっしゃらないようなので飛ばさせていただきます。あと、プログラム認定の委員会、お願いします。

葛西：プログラム認定委員会の葛西です。この一ヶ月ぐらいは亀谷先生にずっと代理を頼んでおりますが、特別プログラム委員会のほうでは変更するとか報告することはございません。

7. 平成 20 年度事業・予算について

大島：それでは続きまして平成 20 年度事業予算についての提案をお願いいたします。

山田：引き続き、平成 20 年度の事業および予算について報告します。予算のほうは案だったので、お手元の資料は作成していませんでした。今朝の理事会で概ね認めていただいたところです。ちょっと見にくくて申し訳ありませんが、会費収入は今年度から皆さんにご負担をおかけしますが、8 千円の年会費が 1 万円になりまして、本年度の正会員の会費収入 1400 万円程度を見込んでいます。ということで、事業収入として概ね 3800 万円程度の事業収入活動を予定しております。支出の部のほうで、事業内容を若干ご説明いたします。まずは学術集会、これは今回開催している学術集会ですが、今回は招聘講師や会場費等のことがあって、支出が増えて 1100 万円を予定しています。それ以外では、先ほど岡田先生から説明がありましたが、引き続きプログラム指導医養成のためのワークショップを今年は 3 回開催ということで、若干予算が少なくなっています。それから先ほどお話ししたとおり、3 学会合同会議。これは執行部会だけでなく認定制度検討委員会や法人化検討委員会といった委員会が同時に進んでいますので、それらの事業費ということで計上してい

ます。それ以外は患者教育用パンフレットにも 130 万円の支出を予定しています。印刷製本費は昨年が選挙および Scene の出版ということで 200 万円程度でしたが、今年度の予算では 50 万円というふうに予定されています。ということで、今期の事業活動支出は総計で 4153 万円、収入が 3817 万円ですから、当期収支差額は 335 万円の赤字計上ということになるのではないかと。前期繰越が 729 万円ですから、今年度の予算としては繰越額が 393 万円を予定しているということをご報告させていただきます。この提案のときに、理事会でもあまり赤字額に関してはしっかり運営努力をしてほしいということが理事のほうからもございましたので、このままというよりは出来るだけそれぞれのセミナーやワークショップ等々は効率のよい運営をして大きな調整をしなくて済むように運営を頑張りますので、ご理解をいただきたいと思います。事業の内容については概ね 19 年度と同等の事業になるということでご理解いただけたらと思います。以上、平成 20 年度の事業および収支予算書を説明させていただきました。

大島：何かご質問はありますか。ご異議など。なければ拍手により承認をお願いします。

(承認)

8. 3 学会合併について

大島：続きまして、3 学会合併について報告をお願いします。

山田：時間も過ぎておりますので、手短かに報告させていただこうと思います。3 学会の合併については皆さんご承知のとおりだと思いますが、当学会では 2010 年 4 月を目標に合併協議を進めているところです。特に日本家庭医療学会としては後期研修プログラムを先立って開始しており、来年 3 月末には 1 期生が、研修が終了するということになります。そういうことも鑑みて合併に関しては非常にスピードを上げて協議をしているところです。ただ、これは学会認定委員会からのご報告になると思いますが、来年 3 月末にプログラムを終了される方の認定試験についてはプライマリ・ケア学会と合同で試験を行う予定にしております。まだ合併がされていない時期ですが、現在認定委員会ではその方向で協議を進めていただいております。あと、それぞれ学会の事情さまざまでございますので、日本家庭医療学会の一存だけでは決まりませんが、総会での議決はすでに日本家庭医療学会ではすでに取りらせていただいておりますし、来年の総会では 3 学会の中では唯一 NPO 法人という法人格を取得している学会ですので、再来年度末に合併と同時に NPO 法人を解散するという議決を取らないといけないという作業が残っています。ということで、来年の総会にはそういった議決を諮る予定であります。日本家庭医療学会としては、今、特に認定委員会に中心になってもらって非常に新しく研修を受けている若い人たちに質の高い家庭医を担う医師として育てていただけるように、彼らがそういった意味でしっかり社会から評価されるように出来るだけ力を結集して進めていくつもりです。今、お話したとおり 3 学会の事情、2 学会の事情もありますし、皆さんご承知のとおり日本家庭医療学会 3 学会合併

のことは、日本医学会や医師会にも注目されているところです。なかなか社会的には難しい問題もありますけれども、日本家庭医療学会としては将来的に質の高い家庭医を担う人材を育成するという立場で是非とも3学会合併あるいは家庭医の育成のためにリーダーシップをとって進んでいきたいと思っていますところです。更なるご理解をいただいて、皆さんの知恵を結集して次世代に託すというか、我々会員自らもそうですが是非力を貸していただいて、明日の家庭医を生む力をお願いしたいです。合併については非常に進捗状況がまだまだ十分詳細にわたって報告できない状態ですが、明日もこの学会場の中で3学会の執行部が集まって、認定委員会、法人化検討委員会の一部も一緒に集まって協議を進めてまいるところでございます。明日の進行状況については、またホームページ等々でリアルタイムにお伝えしていこうと思います。会員の皆さんのご意見は、できるだけ伝えていきたいと思っています。ご質問がある場合にも、ある程度ホームページ上で公開してお答えしていきますので、是非いろんな点でいろんな知恵をお貸しいただきたいと思っています。

大島：ありがとうございました。今の報告について何かご質問などございますでしょうか。

竹中：竹中医院の竹中です。2点あるんですけど、1点目は日本家庭医療学会の特徴として、学生部会とか若手部会が非常に一生懸命活動されているということで、それが合併後にどうなるかということが全然見えてこないのですが。認定以外の件に関してもどういう風に日本家庭医療学会のいいところを残していくのかとか、あるいは学生さんとか若手部会の方に関しても先が見えないと、なかなか活動しづらい点もあると思いますので、その辺り決定次第、早く周知していただけると有難いと思います。あと、2点目に関しましては、5月の初めに合併に関するアンケートが来ましたが、無記名ということで来ていましたが、実はFAX送信ということで無記名になっていないんですね。若手の方に、先ほど研究賞とかいろんなことでしっかりやってくださいと言っている割に、ちょっと執行部として余りになさな気がしますので、是非ちょっとその辺りを。やはり無記名ではなかったら、反対意見がなかなか出にくく、バイアスがかかるということがあると思いますので、もう少し慎重にやっていただければ有難いと思います。

山田：はい。2番目の件については大変失礼いたしました。陳謝いたします。アンケートはすでにお寄せいただいているのですが、時間的に集計について発表する余裕がなかったものですから、是非適宜ホームページ上で、あるいは会報で、どちらかで流布していきたいと思っています。概要としては、ほとんどの人が合併を進めてほしいという積極的な意見が圧倒的でした。それと、1番目のほうで、貴重な意見ありがとうございました。これは、本当に先生のご指摘どおり他の学会にない、正直私が代表理事を努めさせていただいたのも若手の人たちに支えられてやってきたようなものです。他の学会にない強みとしては、学生・研修医部会や若手家庭医部会というのが非常に日本家庭医療学会の特色ですので、今、お話されたとおりのことは我々も肝に銘じていますので、3学会合併になってもその活動が継続できるように、あるいはさらに発展するように後押しをしていきたいと思っています。

大島：よろしいでしょうか。他にご質問はありませんでしょうか。それでは、いよいよ次

の議題ですが、第24回の学術集会についての提案をお願いします。

9. 第24回（2009年）学術集会について

雨森：第24回の学術集会の担当をしております滋賀県の弓削メディカルクリニックの雨森です。来年の5月30日、31日に京都の国立国際会館で会議を開く予定になっております。来年の学会は日本プライマリ・ケア学会、日本総合診療医学会との合同の学会を予定しております。また、来年は皆さん京都までお越しいただきますようよろしくお願いいたします。

10. 第23回（2008年）学術集会について

大島：それでは今回の学術集会大会長の葛西先生のほうから一言をお願いします。

葛西：皆さん、ご参加ありがとうございます。今日と明日、リサーチというちょっとハードとかアドバンスとか言われていますが、それでも今日のワークショップを見ていると非常に皆さん熱心に討議していて、なかなか時間が足りない、終わるのが大変なぐらいだったので、やって良かったなと思っています。運営的にも、皆さんのセミナールームはただで貸していただいておりますし、大西先生のお陰で東大から、ここも山上会館も安田講堂も非常に都内の会場に比べると安い値段で貸していただいたり、それからBMJや福島医大から資金を獲得して招待したりといろいろ努力しています。後は、皆さんが楽しんでいろんなことを得て、また来年の雨森先生がやられる学術集会につなげていただけたらと思います。懇親会もちゃんとお金を使ってやっていますので、楽しんで。ゲストの人たちも待っていますので、どうぞ皆さんご参加ください。ありがとうございました。

大島：ありがとうございました。それでは、他に何か。

白浜：明日の大会長の講演の前に、田坂賞の授賞式があります。そのときに10分ぐらいですけど受賞者からレクチャーがありますので、それにも是非ご参加ください。お願いします。

大島：はい。他にございませんでしょうか。それではこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました。